

新方式リクライニング車いす

取扱説明書

新方式リクライニング車いすを快適にお使いいただくための大切な内容が記載されています。お使いになる前によくお読みいただき、また必要なときにはいつでも見ることができるよう大切に保管してください。

新方式リクライニング車いすの特長

- 新方式リクライニング
- 開閉式アームサポート(高さ調節付)
- フットサポートエレベーティング機構+スイングアウト着脱式
- 調節スリングシートによる背座張り調節
- 体幹サポートインナーパッドによるサポート調節
- 低反発ウレタン製の座クッション
- 通気性に優れたシート素材
- クロスバー折りたたみ方式



目 次

- 安全にお使いいただくために P1・2
- 各部の名称 P3
- 製品構成 P3
- オプション P3
- 使用前点検 P3
- 各部の取り扱い P4・5・6・7
- 調節スリングシートについて P8
- インナーパッドについて P8
- 折りたたみ方・開き方 P9・10
- 車いすの取り扱い P11
- 保守・点検 P12
- お手入れ・メンテナンス P13
- ガススプリングについてのご注意 P13
- アームサポート金具の取り扱い P14

🚫 この絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。

❗ この絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

●警告 (使い方を誤ると、死亡または重傷を負う可能性が想定される事項です。)

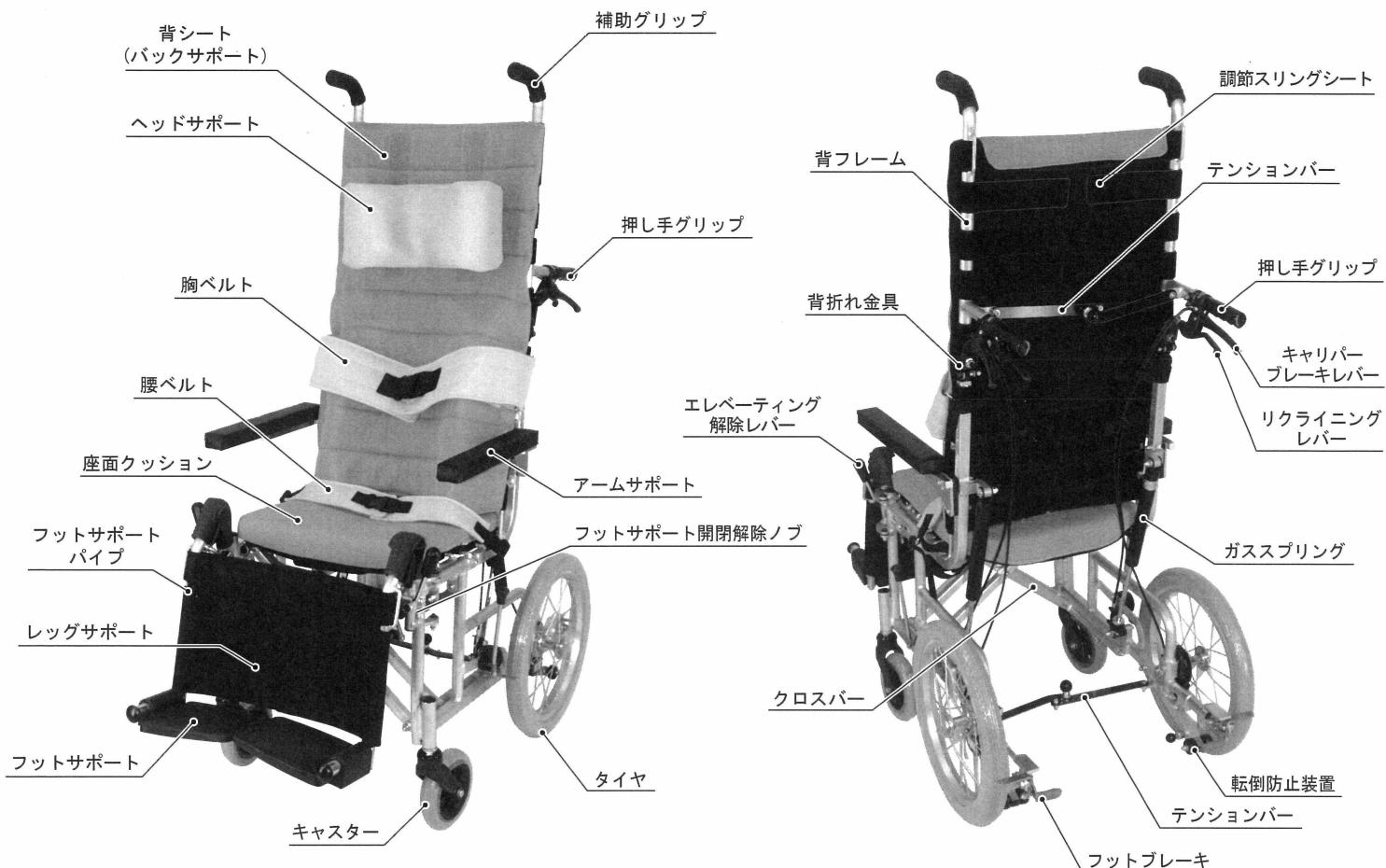
- 🚫 本人を乗せたまま放置しないでください。
- 🚫 はずみをつけたり、つき放したりしての移動(走行)はしないでください。
- 🚫 フレームの折れ・曲がり、ベルト類のやぶれやマジックテープの劣化、各部が破損した状態での使用はしないでください。
- 🚫 ブレーキの効きが弱い、リクライニングの動きがぎこちないなど、各部に不調をかかえたまでの使用はしないでください。
- 🚫 エスカレーターでは使用しないでください。(一般的にも禁止されています。)
- 🚫 子供に操作させないでください。
- 🚫 坂道での駐車はしないでください。
〔ブレーキの効き具合によっては、ブレーキをかけても勝手に走り出す場合があり
大変危険です。やむをえず駐車するときは必ず介助者が付きそってください。〕
- 🚫 本人を座席や背もたれ、フットサポート等に立たせないでください。車いすごと転倒する恐れがあり危険です。
- ❗ 車いすに本人を乗せたせたまま自動車に乗り込む場合は、福祉車両など事前にフックなどの固定方法・固定箇所を打ち合わせてください。
- ❗ 処方上、また安全上必要とされたシートベルト類は必ず使用してください。
(身体状況などによりベルトの使用が困難な場合は処方者や取り扱い業者にご相談ください。)
- ❗ 乗せ降ろしをするときは必ずブレーキをかけてください。
- 🚫 火気に近づけないでください。シートが燃えたりフレーム本体が熱くなり、火傷するおそれがあります。
- ❗ 屋外で使用中に雷が鳴りだしたら、すぐに降りて安全な場所に移動してください。
- 🚫 改造や分解はしないでください。
〔特にガススプリングは窒素ガスが高圧封入してあるため、絶対に改造や分解はしないでください。爆発するおそれがあり大変危険です。〕
- ❗ 踏み切り横断の際は、必ずレールに対して直角方向から進入してください。斜めの角度で進入するとキャスターがレールの溝にはまることがあります、大変危険です。
- ❗ 階段など、本人を乗せたままで抱えて移動する際は、本体フレームを持って十分に注意して取り扱ってください。
- ❗ 悪路や坂道では特に注意して操作してください。バランスをくずして転倒することがあります。

●注意 (使い方を誤ると、人が傷害を負う可能性、または物理的障害が発生する可能性が想定される事項です。)

- 医師の処方で製作された場合
 - 本人以外での使用はしないでください。
(個人用に処方されたものとなりますので、安易に貸し出したりしないでください。)
 - 処方目的以外での使用はしないでください。
- 気温の差の激しい場所や異常に高温な場所(車中など)に製品を放置しないでください。フレームが傷むばかりでなく、熱くなったフレームで火傷をしたり高温になったシートに座ることで、体調に悪影響をおよぼすことがあります。
(※夏場の車中など、積み込んだままにしたときは、フレームの熱が十分に冷めてから使用してください。)
- 各部のガタやねじのゆるみ、タイヤのすりへりなどは、思わぬ事故につながることがあります。定期的に不具合がないか確かめてください。
- 製品をゆすったり、踏んだりなどの乱暴な取り扱い、落としたり、たたいたりなど強い力や衝撃を与えないでください。フレームが破損することがあります。
- 本人の体調によっては、かゆみ・かぶれ・湿疹などを生じることがあります。そのような場合には直ちに使用をやめ、医師の診察を受けてください。
- 本人の成長や状態の変化を感じたときは、すみやかに処方者のチェックを受け、適切な指導のもとに取り扱い業者の調整を受けてください。
- 本人の体調が著しく低下しているときは、十分に注意して使用してください。
- 周辺に小さなお子様がいるときは、指や手足をはさむなどして、けがをするおそれがありますので十分に注意して操作をおこなってください。
- 折りたたみおよび開き操作のときは各部が運動して動きます。指などをはさまないよう注意して操作をおこなってください。
- エスカレータの出入り口付近(特に手すり巻き取り部)、エレベータ、自動ドア等の付近で使用する際ははまれたり、巻き込まれたりしないよう注意してください。
- 車いすのリクライニングなど角度可変のあるものは角度設定に注意してください。
(起こしすぎ・寝かせすぎは本人の身体に悪影響をおよぼすことがあります。)
- 車いすに長時間座らせたままにしないでください。時間設定については処方者・医療機関・セラピストに相談確認の上、ご使用ください。
- 水にぬれた場合、そのままにしておくと部品に錆びが出ることがあります。ぬれた場合には乾いた布ですみやかに拭きとってください。
- 定期的に処方者・取り扱い業者のチェックを受けてください。
- 押し手グリップに重い物を引っ掛けないでください。後方に転倒する恐れがあり危険です。
- 子供を背もたれなどにぶらさがらせないでください。背もたれなどに子供がぶらさがったりすると、後方に転倒する可能性があり大変危険です。そのような使い方はおこわないでください。
- 子供の遊び道具として使用しないでください。
- 二人乗りなど多人数での使用はしないでください。
- 保護者・介助者等が寄り掛かったり、腰掛け・踏み台として使用しないでください。
- 荷物等の運搬に使用しないでください。
- 折たたみ、および開き操作の途中の段階での使用はしないでください。
- 調節スリングシートやインナーパッドなどの姿勢保持部品が不適切な状態での使用はしないでください。本人の座りごこちや姿勢、身体への影響が考えられます。
- シートを外した状態での使用はしないでください。
- 保管するときは、湿度の高いところ、雨が降りかかるところを避けて、風通しのよい屋根のあるところで保管してください。

使用を取りやめるときには(不要になったときには)取り扱い業者にご相談ください。

各部の名称



・処方内容により、装備品が異なります。各装備については各部の取り扱いのページをご覧ください。
また、製品の仕様は、使用状況によって異なることがあります。ご注意ください。

製品構成

		数 量
●	基本フレーム	1
●	調節スリングシート(背・座)	1
体幹サポート インナーパッド	体 幹	左右1対
	骨 盤	左右1対
●	レッグサポート	1

		数 量
●	シートユニット	1
	背シート	1
	座クッション	1
	ヘッドサポート	1

オプション

●泥よけ	
●シートベルト	胸ベルト
	腰ベルト
●背ポケット	
●フットブレーキ	
●スクープカバー	
●背パイプ角度可変ダイヤルロック (※発注、製作時オプションです)	

使用前点検

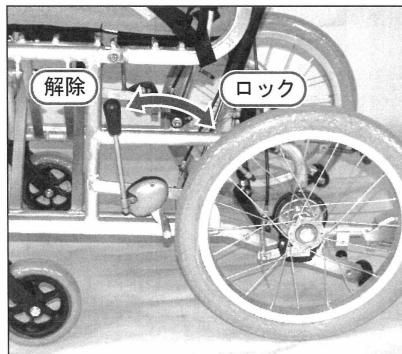
- ・ブレーキが正常に効くことを確認してください。
- ・タイヤの空気が十分に入っていることを確認してください。
- ・リクライニング機構など各部機構がスムーズに作動することを確認してください。
- ・スムーズに走行していることを確認してください。
- ・キャスター、駆動輪にガタや歪みがないことを確認してください。
- ・ネジのゆるみやガタがないことを確認してください。

各部の取り扱い

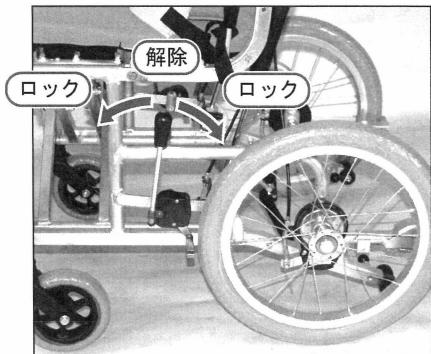
● ブレーキ

① パーキングブレーキ

車いすを停車するときや車いすに乗り降りするときに使用します。特に車いすに乗り降りするときには、必ずブレーキをかけて車いす本体が動かないことを確認してください。



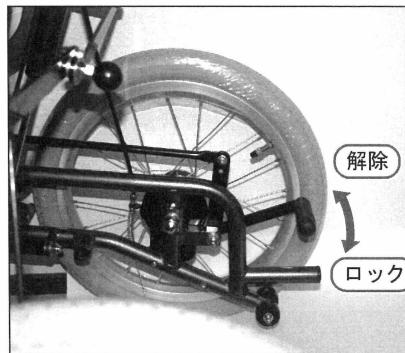
タッグルブレーキ



ミニタッグルブレーキ



フットブレーキ



フットブレーキ(タッグル運動式)

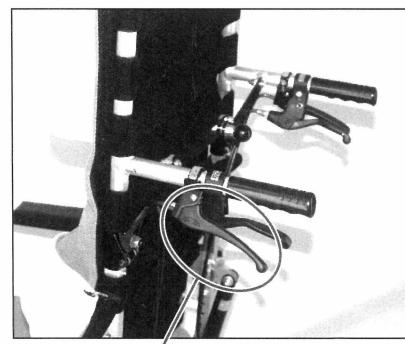
- ・ タイヤの空気が少なくなるとブレーキの効きが悪くなります。タイヤの空気圧を定期的にチェックしてください。
- ・ 走行するときにはブレーキが解除していることを確認してください。かけたまま走行すると、タイヤが著しくすり減ってパンクするおそれがあります。
- ・ 指などをはさまないよう注意してください。

② キャリパーブレーキ

走行中や坂道でスピードを加減するブレーキです。キャリパーブレーキは、両方同時に均等な力で握ってください。片側だけ強く握ると、車椅子の向きが急に変わってしまい危険です。



ブレーキレバー



外側がブレーキレバーです

- ・ キャリパーブレーキ本体には決して油を注さないでください。
- ・ ブレーキレバーを奥まで強く握らないとブレーキが効かないときは、ワイヤーの張りがゆるくなっていることが考えられます。ワイヤーの張りがゆるくなると、ブレーキの効きが悪くなります。レバーの遊びが多くなってきたらワイヤーの調節をおこなってください。
- ・ ワイヤーの張り加減は定期的にチェックしてください。ワイヤーが傷んでくると急ブレーキをかけたときなどに突然切れてしまうことがあります。危険です。
- ・ リクライニングレバーと間違わないように注意してください。

各部の取り扱い

●リクライニングの方法

リクライニング角度を無段階に設定できます。リクライニング用レバーを握るとロックが解除され、握ったまま

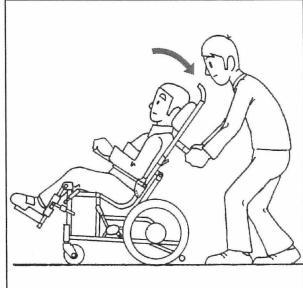
リクライニング角度を任意の角度に設定したらレバーを離してください。その角度でロック(角度固定)ができます。

※ガススプリング式は、ガスの圧力により軽い力でリクライニング操作ができますが、人が乗車していないときは、

リクライニングを倒す操作にガススプリングを押しこむ力が必要です。

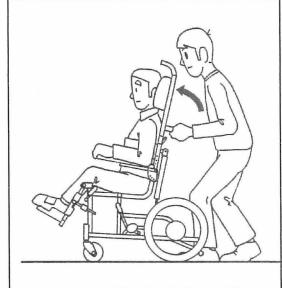
(倒すとき)

両手でしっかりと重さを支える
ようにしてリクライニング
レバーを握ってください。
かかるてくる重さを支えな
がら後方へゆっくりと傾け
てください。



(起こすとき)

両手でしっかりと重さを支える
ようにしてリクライニング
レバーを握り、背もたれをゆっ
くり起こしてください。



- ・リクライニング角度を変える時は必ず両手で操作をおこなってください。乗っている方の重さで急にリクライニング
することがあり大変危険です。
- ・リクライニングするときは、タッグル(パーキング)ブレーキをかけた状態でおこなってください。また、必ず転倒
防止装置をセットした状態で操作してください。路面の傾斜によっては、後方転倒するおそれがあり危険です。
- ・キャリパーブレーキと間違わないように注意してください。
- ・リクライニングレバーの遊びが多くなってきたらワイヤーの張り調整をおこなってください。
- ・お子様には絶対操作させないでください。

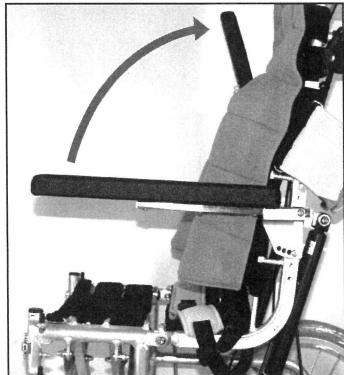


●アームサポート

使用される方の肘の高さに合わせて、アームサポートの高さを調節できます。また、横から車いすに移乗するときには
開閉(はね上げ式または上下式)することができます。

①はね上げ式

アームサポートを持って、
矢印の方向にはね上げ
てください。高さ調節
はボルト・ナットによる
差し替え式です。
(ロック機構はありません)



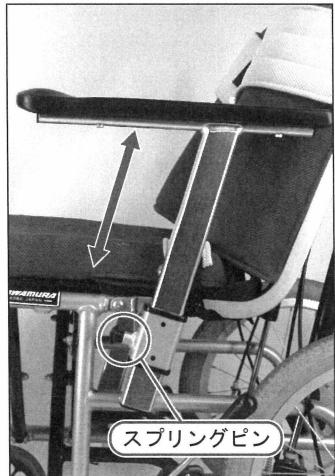
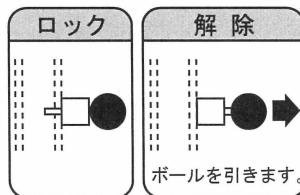
指はさみやベルト・衣服のかみこみに注意して
ください。



手はさみ注意！

②上下式

スプリングピンのロックを
解除するとアームサポート
が上下します。高さの変更
をしたときはロックが確実
にかかっていることを確認
してください。



・上下式アームサポートは下まで下げたときにロックは
かかりません。
・指はさみやベルト・衣服のかみこみに注意してください。



このアームサポートは開閉式のため、車いすを抱えて移動するときは絶対にアームサポートを持たないでください。
外れる場合があり大変危険です。抱えて移動するときには、本体フレームを持って十分に注意しておこなって
ください。

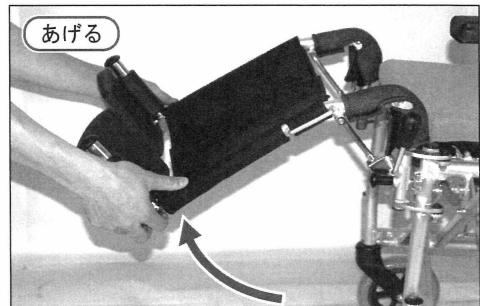
各部の取り扱い

● フットサポート

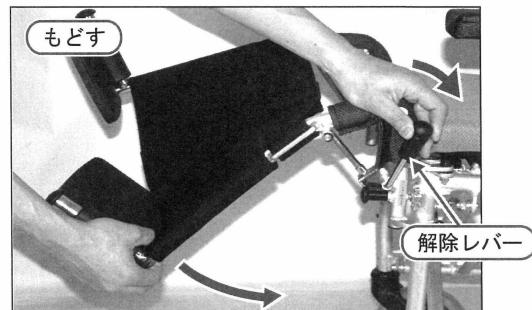
① エレベーティングの仕方

リクライニングを倒したときなど、足をあげて休ませるときに使用します。

- あげるときは、フットサポートパイプをつかんでゆっくり持ち上げてください。任意の角度(離したところ)で設定できます。
- 戻すときは、フットサポート周辺を持ってレッグサポートにかかっている足の重さをしっかり支えながら、もう一方の手で解除レバーを奥に倒してフットサポートをゆっくり戻してください。

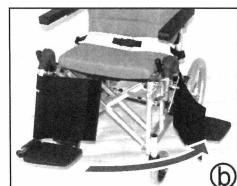
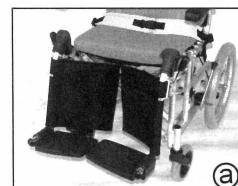


解除レバーの操作のみでエレベーティングを戻すと、足の重さで急に下がって危険です。故障や破損の原因にもなりますので、必ず片方の手でフットサポートを支えながらレバーを操作してください。



② 開閉の仕方

- 移乗の際、車いすをベッドなどに近づけるときに使用します。
- 開くときには、まずレッグサポート真ん中のマジックをはがして分割してください。Ⓐ
次にフットサポートパイプ根本にある解除ノブを手前に引くとロックが解除します。そのまま、外側に開いてください。Ⓑ
戻すときは、内側に回転するだけで自動的にロックがかかります。Ⓒ
取り外すときは、開いた状態で上に引き抜いてください。Ⓓ



- 移乗するときは、必ずブレーキをかけてください。
- 脱着式のため、階段の昇り降りや車への積み込みなど、車いすを抱えるときには絶対につかまないでください。急にはずれるなどして大変危険です。

● フットサポート

使用する方の足の長さにあわせて高さ調節ができます。

フットサポートを矢印の方向にはね上げることができます。



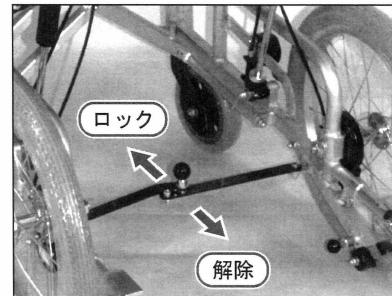
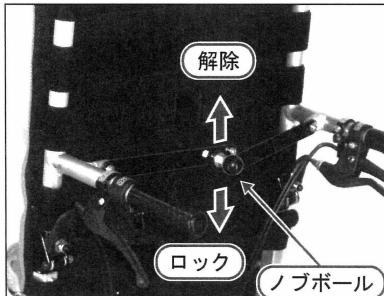
- 高さ調節については取り扱い業者にご相談ください。
- 高さ調節の際、フットサポートのステップポストが地面に近すぎると、凸凹路面やわずかな段差に引っかかって転倒するおそれがあり危険です。地面とのすき間は最低5センチ前後を目安にしてください。すき間は使用者の体格、使用環境により差がありますが、十分に注意してご使用ください。



各部の取り扱い

●テンションバー

クロスバー折りたたみ方式車いすの横方向に対する強度部品です。折たたみのときにはノブボールをつまみ、解除の方向に動かしてロックを解除してください。折りたたみからひろげたときは、必ずテンションバーをロックしてください。



※テンションバーの位置、本数は使用条件によって異なります。ご注意ください。

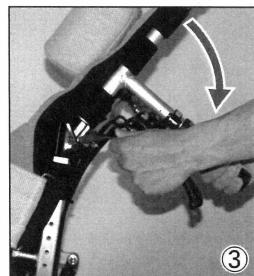


- ・使用時には必ずロックしてください。ロックしないまま乗車・使用するとフレームがたわんで座り心地が悪いだけでなく、リクライニングがスムーズに動かなくなります。またフレームが破損、破壊するおそれがあります。
- ・必ずノブボールをつまんで操作してください。それ以外のところをつかむと指をはさむおそれがあり危険です。

●背折れ金具

折りたたみ時に使用します。折りたたみの高さを低くすることができます。

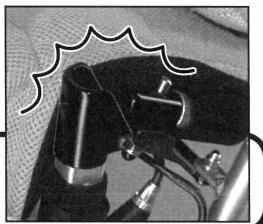
①黒いプラスチックのレバーを後方に引く、または②パイプと一緒に握りこむとロックが解除されます。③片方の手で押し手グリップを持ち、もう片方の手で背折れ金具を解除して折りたたんでください。片側ずつおこなってください。



- ・背折れ金具の開閉部に手や指を置かないでください。はさまってケガをするおそれがあります。また、背シートやベルト、衣服がかみ込まないよう注意してください。



手ばさみ注意！



●転倒防止装置

リクライニングを倒すときや傾斜のある道などで、後方転倒しないようにするための機構です。基本的に常にセットした状態で使用してください。ただし、段差越えなど、転倒防止装置がぶつかるときは収納することができます。

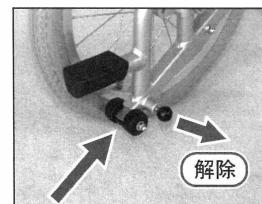
(セットの仕方)

キャスターを引き出すと自動的にロックがかかりセットされます。



(収納の仕方)

フレーム内側のボールピンを引くとロックが解除され自動的に収納されます。



手ばさみ注意！



- ・段差越えなどで転倒防止を解除したときは、忘れずに再セットしてください。
- ・ボールピンは上下から指先でつまんでください。握りこんで操作すると解除されたキャスターで手をはさむおそれがあり危険です。手ばさみに注意してご使用ください。

●補助グリップ

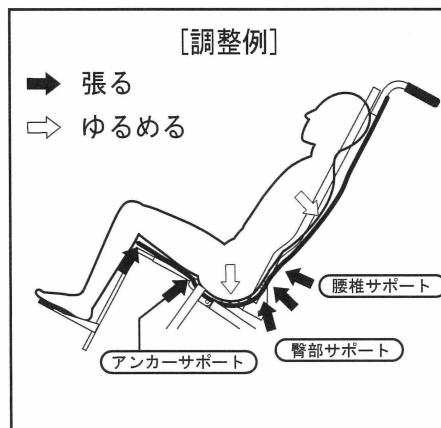
リクライニングを倒した状態で移動するときに使用します。ブレーキレバーがないため、坂道など傾斜のあるところでは十分に注意して操作してください。



調節スリングシートについて



帯状のスリングベルト（マジック式）の張り加減を調整することで、使用者の身体特性に個別に対応することができます。矢状面に加え水平面の調整もすることができます。



背もたれは、①骨盤の前後の傾き（背もたれ下部）②体幹の前後の傾き（背もたれ中央～上部）③腰部の支え（背もたれ腰部）を考慮して調整します。また、左右の張りを変えることができる、側弯による背中のろっ骨隆起などの非対称にもある程度対応できます。座面は、坐骨前部から大腿部はしっかりと張って、臀部（坐骨周辺）をゆるめてお尻を包み込むようにして、臀部を安定させ前すべりを起きにくくするのが一般的です。

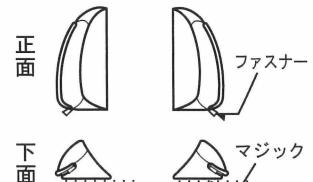
（！）・長期間使用するうちにスリングシートの伸びが生じることがあります。このようなときはシートの張り具合を再度調整してください。

体幹サポートインナーパッドの取り扱いについて

- ① 調節スリングシートの張り調節をおこないます。
- ② 体幹パッド、骨盤パッドを本人の状況・体型に合わせて、またサポートの方向に配慮して調節スリングシートに取りつけます。
- ③ 必要に応じてインナーパッドの形状を変更調節します。

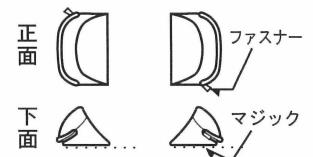
体幹パッド（2個）

- ・左、右別
- ・ファスナーがついている方が外側、先端が細い方が上側です。
- ・マジック面がスリングシート側です。



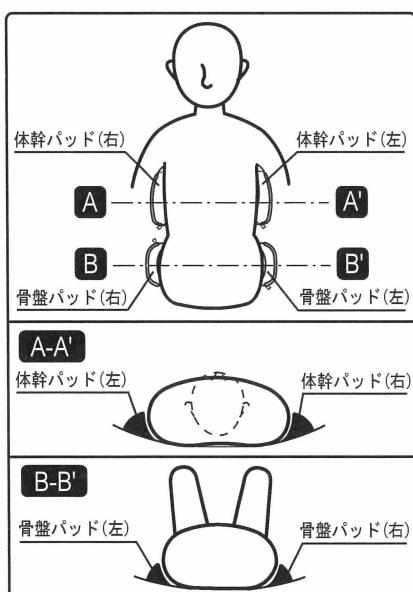
骨盤パッド（2個）

- ・左、右共通
- ・ファスナーがついている方が外側です。
- ・マジック面がスリングシート側です。



調節スリングシートの張り具合で、骨盤が前方に滑り出しにくくなるように、また体幹部を背もたれに預けていられるように矢状面のサポートを調節します。調節スリングシートの水平面でのカーブの形状により、側方からのサポートがある程度得られますが、側方からのサポートを追加する目的で体幹サポートインナーパッドを用います。

体幹サポートインナーパッドは、4個セットになっています。調節スリングシートにインナーパッドを取りつけて、その上から背シートを取りつけて使用します。



【体幹パッド】

- 側弯などの影響で姿勢のくずれに左右差がある場合には、取りつけ位置・高さが左右非対称になる場合もあります。
- ろっ骨下部から胸郭の重みを受け止めるように体幹部の側方をサポートし、体幹部の横倒れや水平面方向のころがりを防ぐよう、調節スリングシートと胸郭とのくさび状の隙間を埋めるように取りつけます。

【骨盤パッド】

- 骨盤部の中央あたりの高さで、骨盤の傾きなどにも注意して、骨盤部からの横倒れや水平方向のころがりを防ぐよう、調節スリングシートと骨盤部とのくさび状の隙間を埋めるように取りつけます。

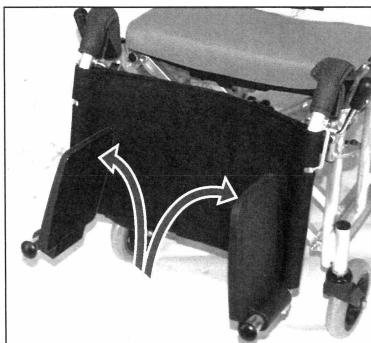
パッドはファスナー式になっています。必要に応じ、中のクッションを取り出し、クッションを削るなどして形状の調整をしてください。

折りたたみ方

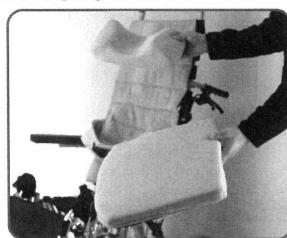
!**パーキングブレーキをかけた状態でおこなってください。**

- ・傾斜や段差がある不安定な場所では作業をおこなわないでください。
- ・折たたみおよび開き操作時は床面等を傷つけることがありますので十分注意して取り扱ってください。
- ・折たたみおよび開き操作のときは各部が運動して動きます。指などをはさまないよう注意して操作をおこなってください。
- ・周辺に小さなお子様がいるときは、特に注意してください。

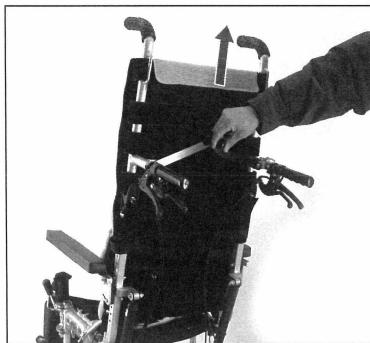
1 フットプレートをたたみます



- ・フットプレートを矢印の方向へはねあけてください。
- ・座面クッション・ヘッドサポートを取りはずしてください。

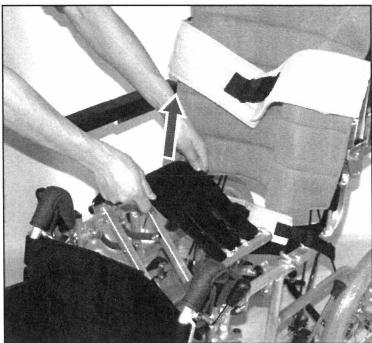


2 テンションバーを解除します



- ・押し手グリップおよび下フレームにあるテンションバーを解除してください。
- (テンションバー操作についてはP7参照)

3 クロスバーを引き上げます



- ・クロスバーの座スリングシートを前方と後方からつかんで、真上に引き上げてください。



ひろげ方

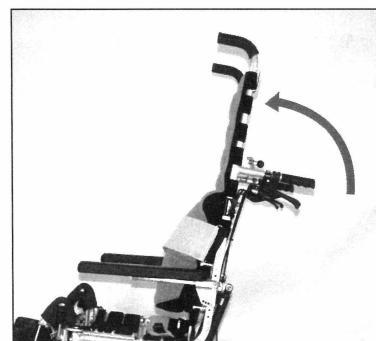
!**パーキングブレーキをかけた状態でおこなってください。**



背折れ金具の開閉部に手や指を置かないでください。はしまってケガをする恐れがあります。またシートやベルト等の部品をはさまないよう注意してください。



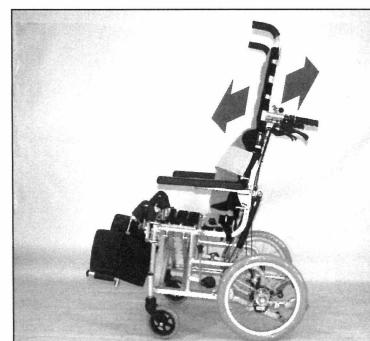
1 背フレームを戻します



- ・押し手グリップを持ち、背フレーム上部を戻してください。

(!) 使用前には、背折れ金具のロックがかかっていることを確認してください。

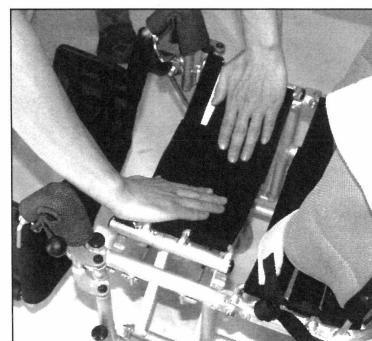
2 フレームを広げます



- ・左右のアームサポートを持って、外側に少しひろげてください。

(!) はね上げ式アームサポートの場合は、アームサポート取付け部、根本あたりを持ってひろげてください。

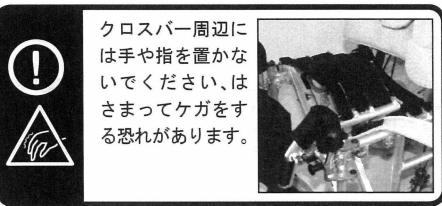
3 クロスバーを広げます



- ・座スリングシートの内側より両手で(手のひら)で押しひろげてください。

(!) クロスバーのパイプは握らないでください、指をはさまむおそれがあり危険です。





4 フレームを折りたたみます

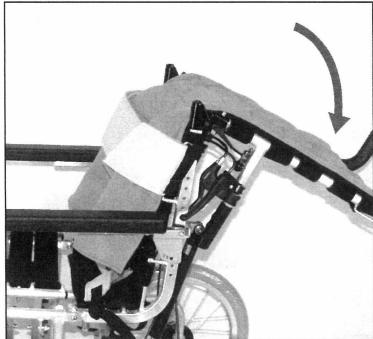


- ・背フレームのまん中あたりを持ち、左右から押し縮めるようにして折りたたんでください。



手ばさみ注意！

5 背フレームを折りたたみます

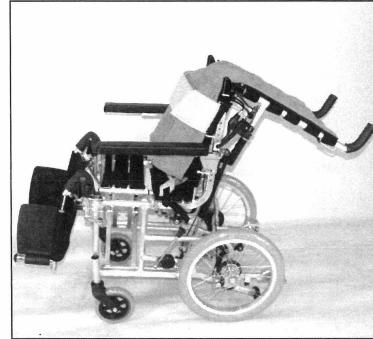


- ・背折れ金具を操作して(P7参照)背フレーム上部を後方に折りたたんでください。

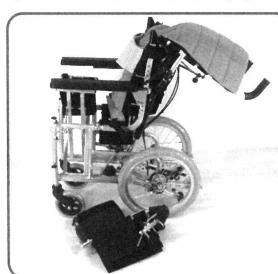


背折れ金具の開閉部に手や指を置かないでください。はさまつてケガをする恐れがあります。またシートやベルト等の部品をはさまないよう注意してください。

6 折りたたみ完了



- ・装備によっては、着脱式のフットサポートを取りはずすとコンパクトになります。



4 テンションバーをロックします



- ・押し手グリップ、下フレームにあるテンションバーをロックしてください。
- (テンションバー操作についてはP7参照)



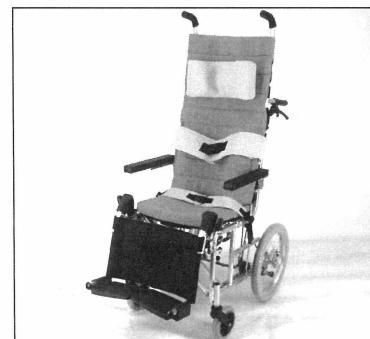
手ばさみ注意！

5 フットプレートを戻します



- ・フットプレートを矢印の方向へ倒してください。

6 完了



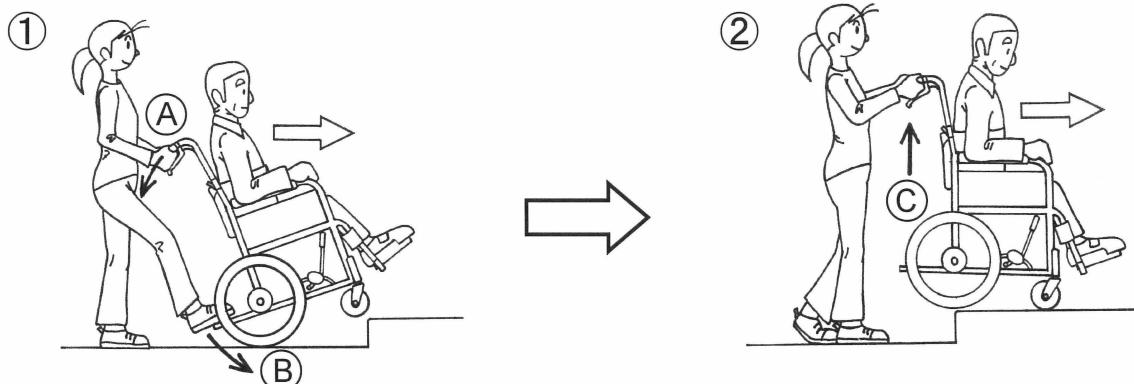
- ・座クッション、ヘッドサポートを上・下、前後の向きに注意して取り付けてください。



フットサポートを外していた場合は取り付けてください。

車いすの取り扱い

●段差越えの仕方



①前輪が段差の直前にきたら

- A. 両手で押し手グリップを手前にひきながら・・・
- B. ティッピングバーをななめ前方に踏み込むと前輪が上がるるのでこのまま前方に進み、前輪を段上にのせます。

②そのまま進んで後輪が段差の直前にきたら

- C. 押し手グリップを持ち上げて後輪を浮かせ、そのまま前方に進み後輪を段上にのせます。



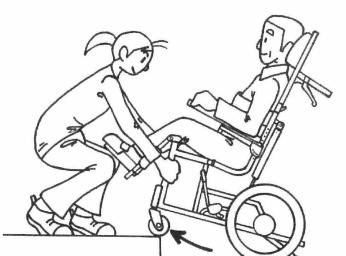
絶対に勢いをつけて乗り越えようとしないでください！
(前方転倒や乗っている方の転落、車いすの破損などのおそれがあります。)

④押し手グリップだけでの前輪上げは禁止！

後方からの段差越え操作がむずかしい場合は車体前方を直接持ち上げる。



ティッピングバーを利用せず
に押し手だけの操作で無理
に前輪を上げようすると
車いすが破損するおそれが
あります。
必ず押し手とティッピング
バーの両方を利用してくだ
さい。



リクライニング車などで後輪
位置がより後方にある場合は、
押し手とティッピングバーの
操作での段差越えは困難な場
合があり、無理をすると車いす
が破損することがあります。
そのような場合は車体前方を
持ち上げて段差を乗り越えて
ください。

●坂道での操作について

(登り方)



急な登り坂

(下り方)



急な下り坂

急な坂道の登り降りでは、車いすの操作を特に慎重におこなってください。上り坂は前向きで、下り坂は図の様に後ろ向きで進んでください。特に下るときに前向きに進むと、前方に転倒したり、スピードが出過ぎて止まらなくなったりする恐れがあり大変危険です。



押し手グリップに体重をかけすぎると前輪が持ち上がり後方へ転倒することがあります。

『保守・点検』

車いすを安全にお使いいただくために定期的に点検をおこなってください。

- タイヤの空気は十分に入っていますか？
タイヤの空気が少ないとブレーキの効き具合や走行時の操作に影響が出ます。またパンクの原因にもなります。タイヤの空気圧に注意してください。空気圧は、タイヤの感触が硬式テニスボールの硬さぐらいを目安に空気を入れてください。
- タイヤの溝はありますか？
タイヤの溝が激しくすり減った状態での使用はさけてください。パンクしやすくなり、またブレーキの効きも悪くなり危険です。
- ブレーキはしっかり効いていますか？
ブレーキ自体に不具合があったり、またタイヤの空気が十分でないと、ブレーキの効きが甘くなり、坂道等で勝手に走り出したりして大変危険です。タイヤの空気圧、並びにブレーキのガタつきに注意してください。ブレーキの不具合に気が付いたときは直ちにご連絡ください。
- キャスターの磨耗、ひび割れはありませんか？
キャスターのゴムがひどく磨耗した状態では、車いすの旋回がしにくくなったりして走行性に影響が出ます。またひび割れがひどく、痛んだ状態のまま使い続けるとキャスターゴムが割れたり、リムから外れやすくなるなどして危険です。
- キャスターの転がり、キャスターの首ふりはスムーズですか？
キャスターの転がりが悪いと車いすの進み方が重くなり、キャスターの首ふりが悪いと車いすの旋回・向き替えがしにくくなります。キャスターの軸にゴミなどがからまっている場合は、ゴミをきれいに取り除いてください。回転がゴロゴロと重たい場合はペアリングの破損等が考えられます。
- キャスター・タイヤの四点は接地していますか？
平坦なところで四点が均等に接地していない場合は、フレームの歪みやネジの緩みが考えられます。そのまま使い続けると、キャスターやタイヤが片減りして走行性に影響がでます。また、フレームがひどく変形して破壊するおそれがあります。
- まっすぐ進んでいますか？
平坦なところで車いすを走らせて勝手に曲がってしまう場合は、フレームの歪みやキャスター・タイヤの片減り、取り付け部の緩みやガタつきなどが考えられます。
- 異音はありませんか？
走行中、または操作中に異音がする場合は、音がどこからしているのか？その発生元を確認してください。可動部の油切れや各部のガタつき、ベルト類のこすれなどが考えられます。注油(ブレーキには注油はしないでください)するなどしても改善がみられない場合や音の出方がひどくなってくると、フレームや部品が破損するおそれがあります。そのような状況や音の発生元が不明な場合は直ちにご連絡ください。
- ガタつきやわれはありませんか？
大きなゆれやガタつきがある場合は、ネジの緩みや脱落などが考えられます。そのまま使い続けると、フレームの歪みによりパイプが曲がり、ひどい場合には折れてしまうおそれがあります。ガタつきがひどく、ネジの緩みや脱落に気が付いたときは直ちにご連絡ください。
- 折たたみ・抜け動作はスムーズにおこなえますか？
折たたみ時・抜け時の動きが固かったり、きちんと折りたためない(抜けられない)ときは、クロスバーのネジの緩み、または締まり過ぎやフレームの歪みによる強いこすれ、ベルトやシートの噛み込みなど様々な原因が考えられます。
- 各部機構の動きはスムーズですか？
リクライニングやフットサポートの開閉、アームのはね上げなど、各部機構の動きが固い・重い・または動かないまま使用を続けると、故障や破損するおそれがあります。
- 座面など、クッション類の取り付け方に誤りはありませんか？
折りたたむときに取り外す座面やヘッドサポート、調整式のパッド類などの取り付け方に誤りがあると姿勢に悪影響を及ぼすおそれがあります。納品時に設定した適切な位置、方向に注意して取り付けてください。(※メンテナンスや洗濯などをして、取り付け方が分からなくなったとき、または成長の変化によって、クッション・パッド類の調整が必要な場合があります。その場合は医療機関にご相談の上、取り扱い業者にご相談ください。)
- シートやベルト類にひどいたわみや破損はありませんか？
シート(背シートやスリングシートなど)やベルト類がひどくたわんでいると座り心地や姿勢に影響します。その場合は、調整をおこなう必要があります。また、シートベルト類に破れなどがあると、状況によってはベルトがちぎれるなどして、車いすから脱落するおそれがあり大変危険です。破れ、破損の程度によっては、交換修理が必要となります。まずはご連絡、ご相談ください。



上記項目の不具合・異変などに気づかれたときは、取り扱い業者にご連絡ください。状況によっては危険性の高い場合もあります。また調整だけでなく修理・交換が必要となることもあります。

お手入れ・メンテナンス

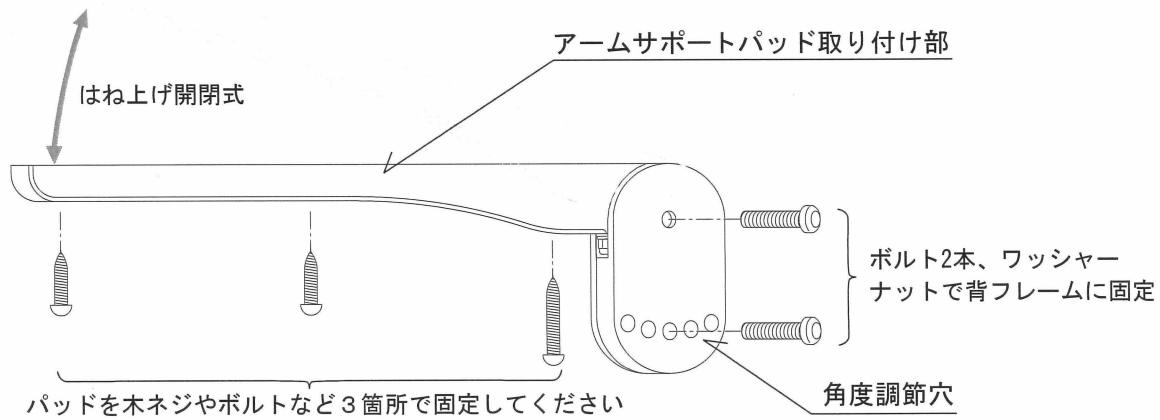
- ・フレームは絶対に水をかけて洗わないでください。フレームなどの各部汚れは固絞りした布で拭きとってください。
※フレーム塗装部分は、たわしなどで強くこすると傷が付き、塗装がはがれことがあります。
- ※特にメカニカルロックやガススプリングに水がかかると故障の原因になります。水に濡れたときは乾いた布でみやかに水気を拭きとってください。
- ・可動部分の動きが悪くなった場合には、その部分のゴミやホコリなどを取り除き、潤滑油等を適量さしてください。
※メカニカルロックおよびガススプリング、またベアリングやキャリパーブレーキには注油しないでください。
故障の原因になります。
- ・シートを洗うときは、マジックテープをすべて相手側に接着した状態できれいに折りたたみ、軽く押し洗いするか、洗濯ネットに入れるなどして、生地を傷めにくい方法で洗ってください。洗ったあとは、陰干しして乾燥させてください。
- ・インナーパッド、ヘッドサポートは、ファスナーによる開閉式です。ファスナーを開き、中のクッションを取りだしてからカバーを上記の要領で洗濯してください。
- ・調整や修理などは、まず取り扱い業者にご相談ください。
- ・保管するときは、湿度の高い場所や雨が降りかかる場所を避けてください。雨や水のかからない風通しのよい場所で保管してください。雨や水にぬれると、各部品、機構にサビが生じるなどして故障の原因になります。また湿度の高い場所では、シートにカビが生えるなどして生地を損なうばかりでなく、健康に害をおぼすおそれがあります。

ガススプリングについてのご注意

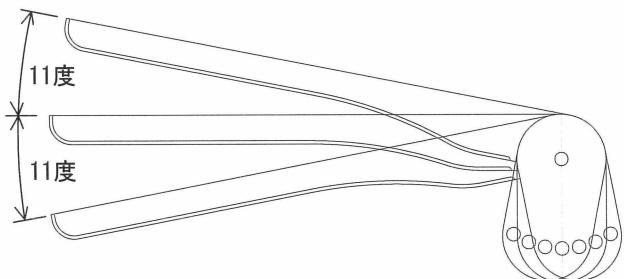
- ・ガススプリングは、窒素ガスが高圧で封入してあります。廃棄する際は、必ず取り扱い業者に問い合わせて廃棄処理を依頼してください。
ガスを抜かずに廃棄処理すると、爆発によりケガをするおそれがあります。
- ・改造、分解は絶対にしないでください。高圧ガスが封入してあるため、勝手に改造、分解すると非常に危険です。
- ・ピストンロッドには一切注油しないでください。注油するとシールの耐久性を損い、油もれの原因になります。
- ・ピストンロッド、およびシリンダーに衝撃を加えないでください。衝撃により傷ついたり凹んだりすると、シールをいためたり、油もれや作動に不具合を生じることがあります。
- ・ひどく気温の高いところ(また-1°以下の低いところ)での使用は避けてください。また雨や水のかかる場所での使用も避けてください。
- ・旅行などで飛行機に持ち込む際は、積み込み室の条件によっては持ち込めない場合があります。事前に航空会社にご確認ください。

アームサポート金具の取り扱い

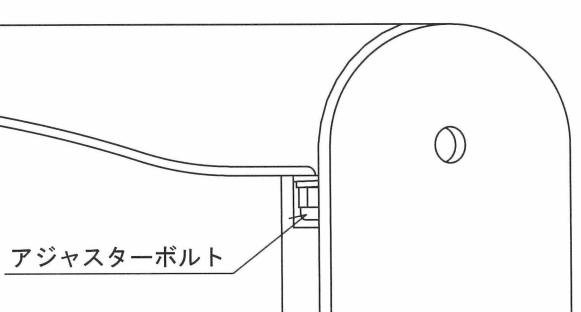
側方から乗り降りする際には、アームサポートをはね上げることにより移乗の負担を軽減することができます。また、背フレームの起こし角度に応じて角度設定も調節できます。



角度調節穴



下側のボルト位置を差し替えると、中心から前後2段階づつ11度刻みで角度が変更できます。



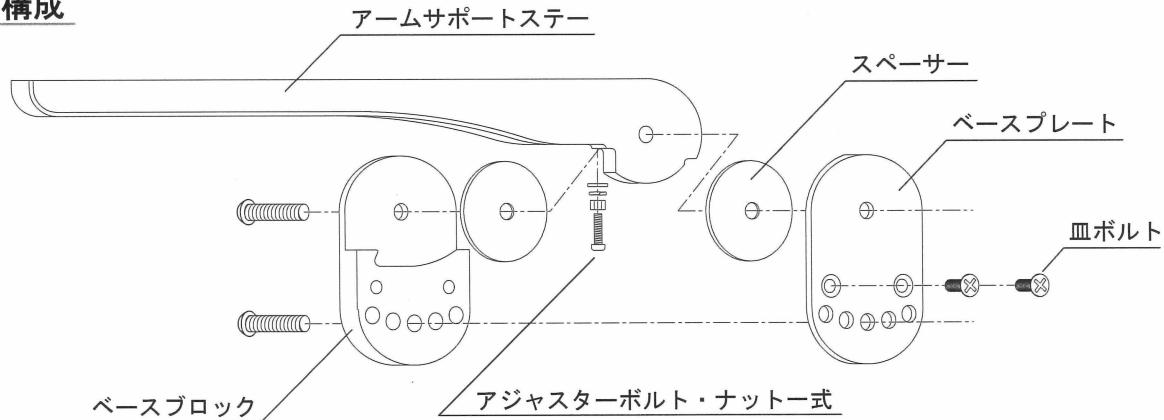
アジャスター ボルトは基本的に左右の平行を調整するためのものですが、角度の微調整も可能です。

※この部分に指やものがはさまらないように注意してください。



- 必ずアームサポートパッド(肘あて)を取り付けて使用してください。
金具のみで使用すると、アームサポートステーの先端などだけがを負うおそれがあり危険です。

部品構成



取り扱い業者・連絡先